

「変化させる防犯意識」

栗原市立鶯沢小学校5年

菅原 奏太さん

「行ってらっしゃい、気をつけてね。」

ぼくは、毎日、この言葉に送られて登校します。親は、もう仕事に行っているのですが、祖父と祖母がこの言葉を掛けてくれるのです。今もたくさんの事件や事故が起きています。そのようなニュースを見るたびに心が痛みます。そして、家族でも

「気をつけなくちゃね。」

という会話をしています。このような事件、事故が起きないようにするため、我が家でも『防犯』の対策を考えています。

それは、番犬を飼うこと、カギをしっかり掛けること、夕飯には、必ず家族で会話することなど家族みんなで気を付けています。

しかし、今までやってきた防犯の対策で本当に良かったのだろうかという疑問が、ぼくの心の中に広がってきました。それは、テレビのニュースがきっかけでした。

ある女の子が、いたたまれない姿で発見されました。その犯人は、何と、いつも見守っていてくれた顔見知りの人でした。

(え、どうやって気を付ければいいんだ。)

ぼくの近所では、たくさんの人達が、地域の安全を守るために活動してくれています。道路の草刈りをして見通しを良くしたり、近所で声を掛け合って留守を守ったりとたくさんの防犯の対策を行っているのです。

(みんな優しく、いい人ばかりだよな。)

ぼくは、いろいろ考えました。

(そうだ。)

ある考えを思いつきました。

親しい人を信用する、しないというのではなく、

「あれ、変だな、おかしいな。」

という思いをそのままにしないということです。このような思いを誰かに必ず伝えるということなのです。それは、一番に家族の会話です。今日あった出来事を家族に話し、いろいろな変化に気付いてもらうことです。

今、世の中では、思いも付かない事件が次々と起こっています。だからこそ、今までの防犯意識を変化させていかなければいけないと思います。

ぼくの家のように、番犬を飼ったり、家族みんなで声を掛けあってカギを確かめたりということも必要です。しかし、これからは、それだけでは、十分ではありません。多くの事件には、必ず何かしらの変化があります。その変化に家族や地域の人達が気づき、安全、安心な地域を作ることが大事になってくると思います。

一人一人の防犯意識を変化させながら、安全で楽しい生活が送れるようにぼくたちも頑張っていきたいと思います。

あと、何十年後には、ぼくたちも大人になり、今の大人の人達を守っていかなければいけません。だからこそ、防犯意識を変化させ、高めていかなければいけないと思っています。